

# YU 夢 ME

人生には幸、不幸があります。私は小学四年で母を亡くし、中学三年で父を亡くしたのが昭和一八年。当時兄一六歳、姉一四歳、私一三歳、妹一〇歳の兄弟姉妹四人での生活は生きることだけで精一杯でした。父が亡くなる一年前、私は国民学校六年で旧制夜間中学(現上野高)に入学、宮内省に就職



入居者  
小松忠夫

永い人生を  
楽しく終わろう

しました。皇居の中を職場案内で廻っていた時、貴族院議員が私を見たのでしよう。出勤したら帝国議会貴族院の会派で研究会事務所での勤務となりました。戦時中の議会は大変でしたが、研究会の役員で、戦後伊勢神宮の宮司と宮社庁長官をした徳川宗敬伯爵が私を可愛がってくれて、「国家総動員令」がでる迄の二年間、月給一五円で議事堂に勤めました。議会は現安倍首相の祖父、岸商工大臣で軍事的東条内閣の時でした。軍国少年として教育された私は志願して、海軍飛行予科練習

生として熊本の人吉航空基地に入隊しました。一四歳で入隊し、半年で予科練を終え、零戦の航空隊として宮崎、鹿児島、大分と転戦し宇佐航空基地で敗戦となりました。私の家は東京(足立)でしたので三月の東京大空襲で焼失。帰る家がなく、母の実家(埼玉)へ帰りました。その後父の親戚を頼り横須賀に行きました。学力のない反戦的だった私は一五年間も定職に就けず、苦勞した後破産寸前の医療関係に就職し、三〇数年夢中で役員として働きました。その間に恋人と結婚し三人の息子を育てました。息子達は皆まじめで大学を出て社会人として元気に働いています。それだけが不幸中の幸いです。私の今の収入はその時の厚生年金だけです。妻に六二歳で先立たれ、私は

〈次ページに続く〉

## もくじ

おばあちゃん家・短歌……………	2
国民平均年齢高齢世界一の国日本…	3
長寿園の日々・川柳……………	4
長寿園の日々……………	5
日本全国	
文化・世界遺産でめぐる食の旅…	6

## 長寿園理念

「人生の目的は円満幸福の生活にある」との信念に基づき、高齢者がそれぞれ円満で幸福な生活ができるよう所要の協力と支援を行うことにより社会に貢献します。

【発行所】  
一般財団法人 長寿会  
小田原市入生田475  
TEL.0465-24-0002(代)  
発行人/加藤伸一  
編集/「夢」編集委員会

老後をどう過ごすか解らずにい  
ました。ある日長男が長寿園を  
紹介してくれ、見学に。前理事  
長に園を案内して頂き、長男の  
職場(高校)に近いと言っただけ  
で、何も解らず入居しました。  
当時は不安ばかりで毎日お酒  
を飲んで入退院を繰り返して、車

椅子での生活になりましたが、  
そんな私を役職員の皆さんは家  
族のようにみてくれました。私  
は自分の事ばかりを考えていた  
のを見直して、元気で明るく生  
き抜くことにしました。お酒を  
辞めりハビリをし、車椅子での  
生活から今では一人で歩行器を

使用すれば園内を歩けるまで回  
復しました。  
性格が違う職員の皆さんが入  
居者を家族のようにみてくれる  
目は一緒です。職員の皆さんが  
元気で明るく働けるように私は  
生活します。  
「長寿園の職員の皆さん、あ

# おばあちゃん家

村山八重子様ご家族  
井手内 咲

私の祖母が長寿園に来たのは  
二〇一一年五月二十九日で、祖父  
と共に入居しました。二人とも  
とても計画的ですから、自分達  
の体が動くうちに色々な老人  
ホームに見学をしに行ったよう  
です。

こちらに住む何年前に、二  
人は東京から私の家のすぐそば  
に移り住んでいたの、私はた  
いてい学校帰りに立ち寄った  
り、プチお泊りをしたり、それ

なりに充実した生活を送って  
いました。何より『おばあちゃん  
家』が近くにあることがとても  
嬉しかったので、長寿園に入居  
すると聞いた時は内心とても寂  
しかったです。

入居当時は以前の生活と変わ  
り、慣れない生活に少し戸惑い  
ながらも、楽しく元気に過ごし  
ている二人を見て、長寿園は二  
人が決めた素敵なお家だと思  
いました。

数年後、祖父が亡くなり、祖  
母は広い部屋に一人になりました。  
た。

最後までしっかりと見届けるこ  
とはできましたが、あの頃の祖  
母は本当につらかったと思いま  
す。それからというものの、少  
ずつ祖母の所を訪ねる機会が増  
えました。そしてその度に、長  
寿園で会う方一人一人が優しく  
気を配ってくださっていること  
に気づき、ここなら祖母も再び  
元気にやっつけていけるのではな  
いかと感じました。

今では友達も沢山でき、好き  
な料理も細々と続けながら、  
日々を楽しんでいるようです。  
これからも祖母が、この長寿園  
で祖母らしく生活していくこと  
を家族皆で願っています。

りがとう」  
入居者は皆、そう思っていると  
私は思います。厳しい福祉政策  
の中でも役職員の皆さんの生活  
の向上と長寿園の繁栄を望みま  
す。

## 短歌

鈴木芳子

雷鳴の伴ふ雨の

ひさびさに降りたる

庭の緑あざやけし

もらひこし箱根薔薇咲く

季のめぐり仙石原の友

なつかしむ

中澤志づ江

ラウンジに

月下美人が今宵咲く

芳しい香に集う幸せ

道に咲くいととき花よ

月見草ふる里偲び

懐かしきかな

# 国民平均年齢 世界一高齢の国日本



理事長  
加藤 伸一

ベトナム・タイ・フィリピンなどの東南アジアの国々へ行くところにかく若者が非常に多い。それらの国の国民平均年齢は二〇歳代で高齢者をみかけることがほとんどない。店員はほとんどすべてが二〇歳代である。道端にも若者があふれている。この光景は、田舎へ行っても同様だ。ベトナムの場合、ベトナム戦争で上の人の多くが戦死してしまつたため、このことだ。ところが驚くことに、この状況は日本の昭和三〇年代と重なる。日本も昭和三〇年代には、平均年齢は二〇歳代だ。た



〈日本で働く目的でベトナムの日本語学校で学ぶ若者〉

とえ社会資本が充実しておらず、貧しくても社会全体に活気があり、活き活きとしている。三〇年前にロンドンに留学していたころ、ハンバーガーの店には高齢者ばかりであった。一杯のコーヒーで何時間も粘るの

である。当時日本ではそういう店は若者ばかりであった。ところが今日の日本では、郊外のコーヒーショップをはじめ昼間のファミリールレストランや、都市部でもデパートの食堂街の昼間は高齢者であふれている。繁華街では若者ならぬ高齢者が集団で地べたにたむろしていたりもする。そして、駅や街中は、シルバーカーや歩行器を使った高齢者も多く目につく。これは町全体がバリアフリー化になった成果でもあろうが、おそらくこんな国は日本だけではないだろうか。とつくに、欧米の状況を追い抜いてしまっている。一方で福祉国家の手本といわれたスエーデンでは、福祉をほとんど税金で賄っていたが、国の財務状況からそれが難しくなり、どんどん民間に委ねた結果、その福祉水準は低下する一方のことである。

今日の日本人の平均年齢は四六歳でドイツと並び世界一高齢だ。イギリス、フランスは四〇歳、アメリカは三八歳だ。平均寿命は、ドイツ八〇歳で日本は八四歳で一致しない。ちなみに、ベトナム・タイは七六

歳、フィリピンは六九歳だ。日本の場合、とにかく問題なのは少子化だ。人口のバランスが全く崩れてしまっている。団塊の世代が一生を終える二〇年、三〇年後をピークに高齢者人口も減少する。そして人口減。今は足りない高齢者関係住宅や施設もそのころには、空室だらけになるといふ。高齢者関係に意を注ぐのも重要であるが、今は忘れ去られてしまったような言葉「子は国の宝」と言われたように子供が増える社会を真剣に考えることが、高齢者問題を解決することになるのではないだろうか。

	平均年齢	平均寿命
アメリカ	38	80
イギリス	40	80
フランス	41	82
ドイツ	46	80
フィリピン	23	72
ベトナム	29	73
タイ	33	74
インドネシア	28	72
日本	46	84

CIA World Factbook 2014より

# の 日 々



春の行楽  
ロングコース  
(靖国神社)



豆まき



## 川柳

鈴木 恒吉

ヘルパーさん親身に

バギーの使い方

この僕を

確と先導するバギー

田中 和子

突然の背骨の痛み

待ったなし

園内も途中休憩

する歩み

青木 千代

ストレスをさらって

行った若葉風

いたずらな顔して

揺れる葱坊主



竹中 糸子

ベランダへ立ち

薫風にハグされる

深呼吸

森の青葉に癒される

小池 怜子

入生田の猿は

発信機がピカリ

CMの通り効いたら

皆美人

田川 富子

ご祝儀へ掛け声高く

夏祭り

森育ち眺める海が

狭くなり

# 長寿園



コーチャル歌声の部屋



春のバイキング

六月 一四日	五月 一〇日	四月 一日	二月 三日
二三日・二四日	一六日	四日	三日
十字町教会歌のプレゼント	運動会	春のバイキング	豆まき
	C棟春の行楽	春の行楽ショートコース	
		コーチャル歌声の部屋	
		母の日の集い	



春の行楽ショートコース (戸川公園)



母の日の集い



C棟春の行楽(フラワーガーデン)



運動会



十字町教会歌のプレゼント



